都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	宮崎県	市町村名	国富町（くにとみちょう）	地区名	国富地区（くにとみ）	面積	1,390 ha

計画期間	平成 24 年度 ～ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ～ 平成 28 年度

目標

大目標　安心・安全で住みよい元気なまちづくり
目標1：防災機能の整備充実や避難地の確保により、災害に強い安全な地域づくりをめざす。
目標2：道路改良・歩行空間整備等を行い、通勤・通学を始め歩行者等に安全で快適な居住空間を形成する。
目標3：地域の活性化、住民の健康づくり、生活環境整備の推進を通して住みよい元気なまちづくりをめざす。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

① 本地区は、本庄川と深年川の流域に広がる市街地と周辺の田園地帯からなり、施設園芸を中心とした営農が展開され、良質で豊富な水量から企業集積も高まるなど、農商工が調和するまちづくりがなされてきたが、近年、企業の大規模な設備投資が相次ぎ、都市的機能が高まる中、交通量の増大から、交通安全上の環境悪化が懸念されている。
② また、自家用車の保有率の高い本県にあって、高齢化率がますます増大する中、高齢運転者も多く、生活に密着する路線の整備の要望は年々増大している。
③ このような中、地震に対する危機管理の重要性が高まっているが、市街地が馬の背状に密集しており、1次避難地となるオープンスペースが不足しているほか、大災害時における避難所となる中央体育館は耐震対策が施されていないなど問題を抱えている。
④ 安心安全に加え、「第五次総合計画」では元気な健康田園都市づくりをテーマとしており、ウオーキングやミニバレーなど気軽にできる健康づくり運動が展開されているが、ハード面での施設整備に対する地域住民の声も高まっている。
⑤ 人が安心して快適に暮らすために、自然や人にやさしい、美しい生活空間づくりが求められている。
⑥ 魅力ある商業・観光づくりのために、にぎわいのある商店街づくりを目指した回遊性を向上させる整備が求められている。

課題

住民が安心して安全に暮らせる住みよい元気のでる地域社会づくりのためには、災害に強い基盤整備をはじめ道路交通の利便性の向上を進めることが重点課題となっている。

① 雇用者の増から交通渋滞の緩和や交通安全対策をはじめ、主要県道にアクセスする町道の改良が必要となっている。
② 市街地が馬の瀬状に密集しており、地震等の大災害時における避難所整備が必要となっている。
③ 子どもや高齢者などが利用する生活道路の歩行空間確保が急務である。
④ 快適で住みよく、活気のあるまちづくりのために、生活環境整備が必要となっている。

将来ビジョン（中長期）

都市的機能と農林業的機能が調和する環境の中で、安心・安全で住みよい生活空間が確保された健康で元気な田園都市
・第五次総合計画では、「人が・地域が・まちが元気な健康田園都市」をキャッチフレーズに、安全で住みよい生活空間づくりや元気・安心・安全な地域社会づくりを施策の柱として位置づけされている。
・都市計画マスタープランでは、災害に強く暮らしやすい安全で便利な都市として位置づけ、防災施設や防災体制の整備拡充、交通事故防止の対策、防災組織づくりなどが方針とされている。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
防災に関する満足度	－	事前事後アンケート調査に基づく、事前と比較した防災対策に関する満足度	大規模な災害時に避難所施設に耐震対策が施されていないなどの危機管理体制や市街地の防災施設が不十分なことに対して、事後を3．0と見込む。	2.8	平成24年度	3.0	平成28年度
安心安全に関する満足度	－	事前事後アンケート調査に基づく、事前と比較した安心安全対策に関する満足度	雇用増に伴う通行車両の増加及び通学路に歩道がないことなどに対する安心安全対策が不十分なことに対して、事後を3．0と見込む。	2.7	平成24年度	3.0	平成28年度
健康増進施設の利用者数	人／年	健康増進施設整備による施設の利用者数	中央コミュニティセンターの利用者数を35,000人／年から37,000人／年に増加	35,000	平成24年度	37,000	平成28年度